

カーザ井



カーザ井は14世紀にあった新里元島の時代から使われたと思われる古い降り井で「雍正旧記(1727)」に掘削年不明と記されています。急な洞穴を数m降りると、宮古ではあまり見られない石を四角に組んだ井桁があります。乾隆三十六年(1771)後、新里集落が現在地に移ってからも利用されました。塩分は濃いものの上水道普及までは住民の生活用水として貴重な水源でした。



宮国のアナ井とアマ井



ふたつの井戸はともに「雍正旧記(1727)」に整備年不明と記されていますが、古くから宮国住民の生活に根差した降り井です。アナ井はみごとに積まれた石垣と石段を降りると澄んだ水をたたえた湧水があり、昼も夜も多くの人で賑わっていたといいます。

アマ井はスカプヤー御嶽で御願を行うときに、必ずこの井戸の水を汲んで神さまに捧げるそうです。



かん ざと

神里ガ一



かん ざと かみ あつ はな あ ばしょ
神里ガーの「神里」は神さまが集まって話し合う場所という

い み お しげ くぼ ち うし まえ あし
意味だそうです。ススキなどの生い茂った窪地で牛が前足で

つち ほ ゆう すい み い つた
土を掘っていたことから、湧水が見つかったという言い伝え

ばちじょう へき めん いし がき めく そこ
があります。すり鉢状の壁面には石垣が巡らされ、その底に

ゆう すい う もと じま みず
湧水があります。「生まれ元島の水」

しん じ つか なか ち ひと ひと
として神事に使われ、仲地の人々に

せい かつ しん こう うえ きちょう すい げん
とって生活、信仰の上でも貴重な水源

です。



フナハガー



フナハガーは「ユークイ」などの祭祀が行われる伊良部ナカドゥイ御嶽のとなりであり、階段を約10m降りると湧水があります。昔、この一帯にフナパ村、北にウポザト村、東にウポドゥ村があり、3村の村建ての中心だったと言われ、この井戸に祀られる女神は、神里ガーの神とともに夫婦神として大切にされています。1961年頃から宮古製糖伊良部工場の工場用水として使われています。



人々と水 ~水汲みの労苦~

毎日使う水を汲んで運ぶのは主に女性や子どもの仕事でした。重い水桶(タグ)を頭に載せる人、天秤棒の両端に下げる人。湧水や井戸と家を何度も往復する重労働でした。幾度となく人が通ったことで表面が滑らかになった石段、釣瓶を手繰った溝が何本も刻まれた井戸の縁が、当時の水汲みの労苦を物語っています。

混むと水が減って濁るから、午前2時とか夜が明ける前に行ったよ

サバウツガーは潮が満ちると海水が入ってしょっぱくなるから、飲む水は干潮のときに汲んだ。干潮が深夜だとタイマツを持って汲みにいくこともあったよ

塩辛い水はそのまま煮炊きしてお味噌を節約したさ

来間島は井戸が来間ガーしかなかったから、干ばつの時はひとり1斗(18ℓ)までで、カーバン(井戸番)の長老たちが帳簿でチェックしていたよ

子どもをおんぶして、頭にタグを載せて運ぶので子どもが濡れて大変だった

学校に行く前、帰ったあとに水を汲みに行くよ

家に着くころには頭がしびれていたよ

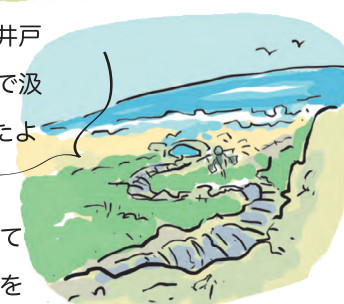
井戸までの道は暗くて怖かった

水汲みを待つ間は井戸端会議さ

順番を待つ間にブー(芋麻)を績むから「ブーンムガー」という井戸もあったよ



石灰岩の層が厚すぎて井戸が掘れないから遠くまで汲みに行ったり崖を降りたよ



水を運ぶとき、桶がゆれて水がこぼれないように葉を水面に被せた

木桶をのせる「カウス」はサウキビの葉やススキを丸めてつくる



オオハバウやクズイモ、アザの若葉を束ねたものなど



水を汲む「クバス」は、クバの葉を糸編んでつくる

ほとんどの井戸に拝所があります。今でも祭祀が行われるところもあり、水の恩恵に感謝し、いつまでも枯れることがないように祈ります。人々にとって井戸は大切なところでもあります。



井戸の横の拝所

アガイヌカー

カフカーヌカー（東井）



「^{よう せい きゅう き}雍正旧記(1727)」によると、カフカーヌカーは「^{アガイヌカー}東井」、^{イズヌカー}ウプヤヌカーは「^{しる}西井」と記され、古くから使われてきたと伝えられています。^{おおがみしま}大神島の地質は主に島尻層群で、琉球石灰岩に覆われた宮古の他の島とは少し異なります。^{い ど}島内にある井戸は6か所ですが、^{いん よう てき り}飲用に適したのは離島振興コミュニティセンター前の^{まへ}フタカーだけのようです。他の井戸は^{えん}塩分を含むため雑用水に使われました。



カータガー



ムッドゥマイガー



カータガーは池間島に人が住みはじめた頃から使われてきたと言われ、「^{よう せい きゅう き}雍正旧記(1727)」に記載されています。^い島内9か所を巡拝する祭祀ユークイでは神女たちが休憩場になっています。^{きゅうけいじょう}ムッドゥマイガーも古くから使われ、^{すてみづ ガー}巢出水井とも呼ばれる重要な井戸です。^{じゅうよう}マークツツで、この1年間で生まれた子どもを^{ねん かん う こ}ムトゥに紹介する際に体を清める水は、必ずこの井戸から汲むそうです。



ズーガー（東の井）



ズーガーは東の大門の南にあり、狩俣の4つの祭祀集團のうちシダディムトゥとナーンミムトゥの定住にまつわる伝承を持つ井戸です。もともとは窪地の底に水が湧いていましたが、水を汲みやすいように石段が造られました。1920(大正9)年頃までは降り井でしたが、後に石を積み上げ、外側を埋めて現在の形になりました。上水道が普及するまで産湯に用いられていました。



唐井



この井戸は濡れた鳥が飛び立ったことで発見されました。見つけたのが中国からの渡来人だったので、唐井と呼ばれるようになったそうです。元は自然の洞泉でしたが、大正の頃に石積みをしました。前方に馬を洗う池があります。大浦集落はグスク時代に渡来人である大浦多志によって建てられた伝説があり、後に戦乱で廃村になったようです。現在の集落は1714年に再建されました。



市街地 湧水・井戸めぐり

平良市街地には湧水や井戸がたくさんあり、古くから島の中心地として多くの人口を支えてきたことがうかがえます。上水道の普及で役割を終えた現在でも、その姿や痕跡を見ることができます。



マイヌン井

マイヌン御獄構内にある。釣瓶は残るが井戸は塞がれ、パイプを通した痕跡がある。地域住民の生活用水として使われ、いつも賑やかな共同井戸だった。



インガー(犬川)

与那覇ばらの軍勢に追い詰められた目黒盛豊見親が、ここにあった洞穴から飛び出してきた犬に助けられたという伝承がある。「水の神(竜神)」「豆腐の神」「唐の主」が祀られる。

ンマリガー(生まれ川)

「雍正旧記」によれば1667(康熙6)年の大地震でできた陥没ドリーネを1668年に整備。ピキャズに通じているといわれた。戦後に埋め立てられ、息をするための塩び管が立てられる。



宮古役所跡の井戸

明治期に設置された役所内の井戸とされるが、掘削年数、名称は不明。こうした形の井戸としては初期のものともいわれる。



イズウバリ井(西大原井戸)

郷土史家・慶世村恒任の屋敷跡にあり、恒任が主導して昭和初期に掘削した里井戸としてウバリ西側一帯の人たちに利用された。

井戸跡

店舗前の植栽柵にパイプの端が突き出ている。2012年の道路拡張の際に塞ぎ、パイプを付けた。

井戸は埋めない？

使われなくなった井戸は完全に埋めてはならないとされ、パイプを通して蓋や金網などで塞ぎます。井戸の息抜きの習慣は日本各地にあり、井戸の神さまが自由に行き来して呼吸するためとされ、宮古では空を見えるためとも言われます。



パイヌスク井(南の底井戸)

大三俵南部の里井戸としてたくさんの人たちが汲みに来ていた。少し塩っぱいので炊事や洗濯が主だった。今は水が枯れている。

白川里井戸

1853年に吉野海岸沖で座礁沈没した英国船のバラストと思われる花崗岩が釣瓶に使われている。



盛加ガー

平良近郊で最大規模の降り井。103段の石段は長年の水汲みで踏み跡が残る。貝塚や陶器など遺物の状況から周辺に大きな集落があったと考えられている。

やま と がー
大和井 (ブトゥラ井・大川)
がー うぶ かー



大和井は、いつ頃やまと がー ころ げんざい かたちから現在の形になったかはっきりしませ
んが、伝承でんしょうによると琉球王府から派遣りゅうきゅうおうふされた役人は けん やくにん いちなどごく一
部ぶ ひとの人しか使えず、湧水つかまで2か所ゆう すい しょ もんの門みず もりがあって水守もいた
そうです。後に一般住民のち いっ ばんじゅうみんも使えるようになり、上水道じょうすい どう ふきゅうが普及
するまで利用り ようされました。ブトゥがー へい みん よう かんが井は平民用と考えられ、
洞泉どう せん いし だん もうに石段う がーを設けた降り井うぶ かー ぎゅう ば よう せい せんです。大川は牛馬用えん けい いし づみの井泉だった
とされ、円形の石積えん けい いし づみにはスロープもあります。

やまと がー
大和井

大和井は、全体的に巧みな石積で構築されています。水汲み場から緩やかな曲面の石積が2段施されています。下から大きな石、上へいくにつれて小さな石を、互いにかみ合うように削った「あいかた積み」で積んでいます。

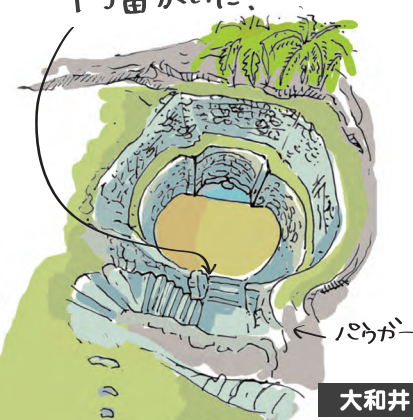
ホラ貝などの
まきが い そうしょう
ブトララ＝巻貝の総称



うぶ かー
大川

大川は「雍正旧記」に1717(康熙56)年
に補修工事が行われたと記されています。
その後、長らく土に埋もれていましたが、
2004(平成17)年に復元されました。

カンヌの跡の
ような穴がある
扉か棚がついていた？
門番がいた？



ブトゥラ井^{ガー}

ブトゥウ井のブトゥウは
がい まき がい い み
 ホラ貝などの巻貝を意味
ね もと どう
 し、ガジュマルの根元の洞
けつ まわ こ
 穴の石段を回り込むように
くだ
 下っていきます。湧き口を
 コンクリートで囲い、水汲
 み場を設けています。

①大和井 ②ブトゥラ井 ③大川



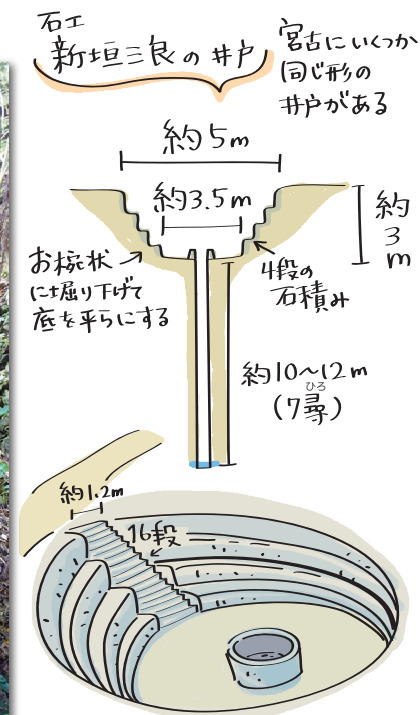
じ もり がー 地盛井戸



地盛井戸は5 mほど石段を降りると円形の水汲み場があり、中央に深さ17mの井戸が掘られています。建設記念碑によると、当時下里村最寄と呼ばれていた地盛と七原の住民が首里の石工・新垣三良に依頼して1900(明治33)年2月に起工、4月に完成したと記されています。水汲み場には戦時中に住民と軍が共同使用した壕が2か所あり、形状から空襲時の退避壕とみられています。



ニスニャーガー



昔、花切の人々は友利のあま井などを使っていましたが、あまりに遠く不便だったため、1908(明治41)年に石工の新垣三良に依頼して井戸を掘削しました。1903(明治36)年にトゥンダキガー、1911(明治44)年にはムラグスヤーガーと、同じ石工によって井戸が掘削されており、住民が資金や労働力を提供し合って築いた大切な水源でした。ニスニャーガーは今も当時の姿のまま残っています。

